特定非営利活動法人　山崎・谷戸の会
会報 第113号 2023年1月5日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

農閑期は雑木林管理班が活躍します

12/4 雑木林の除間伐

鎌倉中、日本中、手入れの行き届かない二次林、雑木林だらけで、がけ崩れが心配されています。しかし当会が管理する谷戸内の山は、わずかながらも、積年の保全活動の成果で、美しい雑木林の姿をとどめています。いまや重機を使わない限り手遅れの樹木も多いなか、この冬も手作業が続けられます。

お知らせ& 谷戸往来 1

どんど焼き 1/14(土)

（雨天時 15(日)に順延）

場所：野外生活体験広場

山崎の伝統行事を引き継ぎました。（公財）鎌倉市公園協会と協働で開催します。

谷戸の稲わらが人気

山崎で昔から伝わっている正月飾りを作りたい方が増えてきて、当会の指導員は大わらわ。わらだけのご所望も、市内のあちこちから殺到しました。いまや貴重な素材ですね。

今年の 10 月は天候不順で気温が低め、11 月は天気がよく暖かい日が多かったです。11 月になってから赤トンボが増え、12 月になっても産卵していました。季節が 1 ケ月遅れた感じです。台風の被害がなく 10 月の低温のためか紅葉がきれいでした。12 月 7 日に初霜がおりました。

オギ原の手入れ

●カヤネズミが教えてくれること

カヤネズミは日本最小の可愛いネズミで、カヤ原（ススキの草原）に暮らしています。60 年ほど前まで、谷戸の周辺（梶原）は広大なカヤ原だったそうです。カヤ葺き屋根の材料など、里山にはカヤ原がつきものだったようです。その名残か、カヤネズミが谷戸の湿地（ススキに似たオギという植物があるため）に生き残っています。以前は田んぼの稲にも巣を作っていましたが、現在は数年に 1 度しか田んぼでは見られなくなりました。生態系保全班ではカヤネズミの巣の数や分布を年に 2 回続けながら保護活動に生かしています。わかってきたことは、生息地の湿地（オギ原）の手入れが必要なこと、イネ科植物の大切さ、オギ原周辺のササの手入れを工夫することです。貴重なカヤネズミの生息地を保護するというより、人手を入れることがよい結果につながるようです。ツルがからんで荒れた湿地より、湿地の手入れをしてオギを元気に育てている場所に巣が多く見つかるからです。チガヤやチカラシバなどイネ科植物は、カヤネズミの食料や巣を作る場所として重要です。先月号で紹介したチカラシバを刈り残している場所に、今年も巣が見つかりました。カヤネズミはイネ科の植物の葉を糸のように裂いて丸い巣を作りますが、湿地周辺のササにも巣を作りますが、ササを適度に刈りこんだ場所に多くの巣が見つかります。巣作りのためには柔らかいササの新芽が必要なようです。現在、谷戸のカヤネズミは、5～6家族しか生息していないと思われ、巣の数は横這い状態です。市内の他の緑地では数年で絶滅してしまった事例もあります。県内でも激減しているのは、生息地の手入れ作業がされていないのかもしれません。カヤネズミをこれからも守っていくため、保全作業を続けていきます。

チカラシバに作った巣
(大きさは握りこぶしぐらい)

カヤネズミの赤ちゃん

各班のお知らせ

12/11 籾殻くん炭

田んぼ班

１１月に籾干し、籾すり、精米を続けた結果、谷戸まつりでは用意したお米１７８袋が完売！新設したむしろ編みコーナーも好評でした。１２月中旬から田んぼ班員の憩いの場となる籾殻くん炭が始まりました。

畑班

谷戸まつりでは谷戸鍋、ふかし芋ともに完売。畑の恵みを多くの人に味わっていただいた。主役のさといもとさつまいもはまずまずの収穫だったが、来年の倍増？を目指して種芋を慎重に洞入れした。

11/25 さつまいもの洞入れ

雑木林管理班

今期初に雑木林を調査し、ナラ枯れの木を主に伐採対象木を選定しました。昨夏枯れたものは薪として活用する計画です。安全を最優先で怪我などを発生させないよう、伐採作業を進めていきます。

自然遊び班

「里山探検隊　やきいも、谷戸あるき」ものすごくあまかったです。あと百こたべれます！（2 年）今日、山のぼりをしている時に、のぼりおりがはげしくて、くっつき虫がいっぱいくっついておもしろかったです。（3 年）

11/16 たのくろ豆の殻出し

農芸班

たくあんの材料は、陽をたくさんあびた干し大根、田んぼの糠、塩、柿の皮、赤唐辛子です。昔ながらの素朴で味わいのあるたくあんができあがります。たのくろ豆の選別もあと少し。次回は味噌作りです。

生態系保全班

野鳥観察の季節になりました。鳥を見るためには鳥を見つけなくてはなりません。冬は葉が落ちるので、樹上で暮らす野鳥たちも観察しやすくなります。アカガエルの産卵に備えて準備をしていきます。

植物育成班

ヒガンバナを増やそうと頑張っています。葉が伸びる冬に日が当たるように手入れをします。オギの手入れの時期ですが、すでに新芽が出ています。この状況で手入れをしたらどうなるか観察が必要です。

谷戸の生きもの

ハムシ　　「春よ来い、早く来い！」

※アカガネサルハムシ（ノブドウ）

葉を食べるから葉虫（ハムシ）。田んぼ、畑、湿地、雑木林と多様な環境が残る山崎の谷戸では多くのハムシが暮らしている。アカガネサルハムシはノブドウの葉を食べているせいかワインレッドが美しい。キボシツツハムシはクリなどの葉を食べるが、成虫は花の蜜にも集まる。“キボシ”は“黄星”の意味で背中の模様から納得できる。クリの花に擬態しているようにも見える。しかし、ヤマノイモで見つかるキイロクビナガハムシやウシハコベで見つかるヨツキボシハムシは、どこが黄色？黄星？と思ってしまう。実は、昔は死んで変色した標本で名付けたのでこういうことがおこる。どれも 1 ㎝以下と小さいが、美しさは格別でいつまでも見入ってしまう。山崎の谷戸では 60 種類以上のハムシを確認しているが、まだまだコアカソ、カキドオシ等々に見られる多くの食痕の主は分かっておらず、彼ら？との出会いを求めて春になったらまた谷戸通いが始まる。”君はどこにいるのか　まだ見ぬ恋人よ　君と逢うその日まで僕は行く”の心境ね。→→→加山雄三の「まだ見ぬ恋人」・・・知っているよね。（😅）

（たのくろまめお）

キボシツツハムシ（クリの花）

キイロクビナガハムシ（ヤマノイモ）

※ヨツキボシハムシ（ウシハコベ）

※ 第 24 回かまくら市民活動フェスティバル　SDG フォトコンテストにて市民賞受賞作

谷 戸 往 来 2

NPO フェスティバル報告

12/3(土) 鎌倉中央公園にて

山崎の谷戸で初開催。多くの団体が参加し、谷戸まつりとは違った賑わいとなりました。新たな交流が生まれ、今後を期待したいです。

12/10(土)、11(日) きらら鎌倉にて

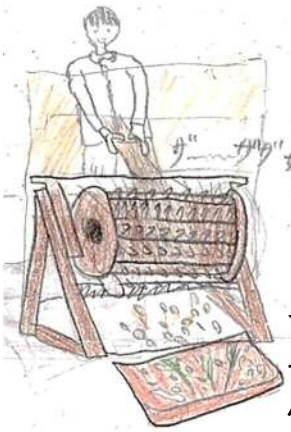
鎌倉駅周辺を来訪する方々に当会の活動をお知らせできました。山崎の農文化継承に共感していただいたり、農芸品の美しさをおほめいただき、嬉しく、励みになりました。

かまくらレンジャーズ　12／4(日) 大量の落ち葉を堆肥場に運び入れ、堆肥場の切り返しも行い、あっという間にすごい量の仕事をこなしながら、終始すがすがしい笑顔だったのが印象的でした。「フィールド活動を体験できるよい機会になりました。」今後の来訪が楽しみです。

体験学習

深沢小５年　脱穀 11/3

★3 つの道具が木で作られていました(ほとんど)。こわさないようにするため、力かげんが必要だと思いました。



★やってみての感想は、足ぶみだっこくきでは、最初は逆の方向にまわることがあったけど、いまはプロみたいにできます。

★脱穀で使った道具の中でも「千歯こき」が一番心に残りました。「千歯こき」は歯が何本もあり、特ちょうなのは上から下へと歯と歯のすきまがせまくなっていたというところです。こうなっていることで、米つぶがいっきにたくさん取れました。

★今日の脱穀は、ものすごく興味深いことが沢山ありました。3 つ目は唐箕のなぞです。僕が見た中でも、どーしても分からなかった機械です。なぜなら「風」で米といらない部分を分けているからです。風を送るだけで 2 つに分けられるなんて、どーも信じがたくて、あの中は、機械を真っ二つに切って、よーく観察してみたかったです。

★ぼくは本当のことをいうと、脱こくというものをなめていました。脱こくは、ただ機械に稲を入れるだけ、そう思っていたからです。しかしいざ谷戸へつくと・・・そこにあったのは手動の脱こく機。いっきに考えがくつがえされました。とくにあの足ぶみ脱こく機、ふむのにすごく力が必要で使っているときは「すいません・・・脱こくというものをなめていました。」という気持ちになりました。

教育支援教室ひだまり　たのくろ豆収穫 11/14

★たのくろ豆を結んだあとの落ち葉をたい肥の集積場にリヤカーで運びましたが、そこには、稲わらもつまれていて、無駄にするところがないなあ、と思いました。(中 3)

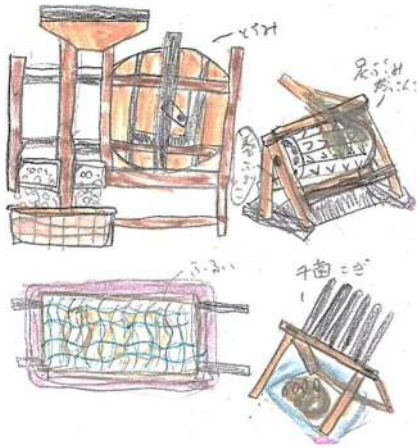
★中央公園でたのくろ豆の収穫をしました。まず、支えていた支柱を取り除きました。その後、たのくろ豆の根元をはさみで切りました。ぼくは、生のたのくろ豆を食べてみたら、あくが強くてあまりおいしくなかったです。(小 6)

富士塚５年　脱穀 11/17

★とうとう今回で、みんなで収かくした稲を脱こくすることができました。お米を食べるのが楽しみです。今日はいろいろな道具を使ったと思いますが、ぼくが個人的に一番便利だったのは、千歯こきです。ですが見た目はめっちゃこわかったです。

★すべて終わり、お米を量ったら 7.5 kg でした。すごくおもしろかったです。あと、お米の香りがただよってきました。

★足でバーをふみ、だっこくさせるそうち。一人はいねを両手で持ち、もう一人はバーをふむ。いねを持つという作業は予想以上に注意。いねが持っていかれそうになる。足でふむ人の作業もかなり大変だ。つかれてくるとリズムがくずれ、まわる早さがおそくなる。



★私は今日やった「だっこく」という作業に、こんなにたくさん、色んなことをして「だっこく」ができるとういうことを知りました。昔の人はこの作業を毎日やっていたとすると、とてもすごいなと思いました。

小坂小３年　谷戸体験 12/5

★一番たのしかったのは、山でおちばかきをしたことです。おちばかきではみんなできょうりょくして、たくさんおちばをあつめました。そしてそれをブルーシートにつつんだけっか、すごくおもくなりました。ぼくはこれをみて、自分たちはよくがんばったなとかんしんしました。

★葉っぱをくまでであつめました。ふんでる時、葉がいっぱいあると、だん力があるなあ～とわかりました。

★一番心にのこっていることは、大豆の色です。わたしはずっと、とれたばかりの時もはだ色かと思っていましたが、とれたばかりの時はみどり色でした。はじめて知ったので、少しおどろきました。

１月

８日（日）田 籾殻くん炭 ✤
　　雑 雑木林の調査･測定 ✤ ☆

14日（土）どんど焼き

15日（日）田 籾殻くん炭、堆肥撒き
　　雑 竹の伐採
　　自 里山探検隊「竹細工」
　　青空自主保育にこにこ会保全活動

16日（月）畑 畑の整備

22日（日）田 籾殻くん炭、堆肥撒き ☆
　　雑 間伐材整理 ✤
　　講座 「雑木林の管理」 ☆
　　「耕地の土壌について」
　　青空自主保育やんちゃお保全活動

23日（月）畑 荒起こし ☆

29日（日）田 籾殻くん炭、苗床耕し ✤
　　畑 じゃがいも畑の耕し ✤
　　雑 雑木林の除間伐
　　青空自主保育なかよし会保全活動

２月

１日 （水） 農 味噌作り ✤

５日 （日） 田 籾殻くん炭、畔直し ✤
　　雑 園内整備 ✤
　　講座「谷戸の野鳥観察」 ☆

８日 （水） 畑 さつまいもの苗床作り ☆

12日（日） 田 籾殻くん炭、畔直し
　　雑 雑木林の除間伐 ☆

13日（月） 畑 たのくろ豆畑の耕し

15日（水） 生 カエルの卵の観察 ✤

19日（日） 田 畔直し
　　雑 雑木林の除間伐 ✤
　　自 里山探検隊「収穫祭」

22日（水） 生 カエルの卵の保護作業

26日（日） 畑 じゃがいも畑の畝作り
　　雑 雑木林の除間伐

３月

５日（日）田 道具の手入れ ☆
　　畑 道具の手入れ ☆
　　雑 山作業道具の手入れ ☆
　　自 父と子の里山体験 🏳
　　講座「早春の谷戸散策」 ☆

８日（水）植 早春の植物の観察 ✤

12日（日） 田 畔･水口直し
　　雑 雑木林の除間伐 ✤

13日（月） 畑 じゃがいもの植え付け ✤

15日（水） 畑 さつまいもの洞だし･伏せ込み

19日（日） 田 畔･水口直し
　　雑 雑木林の除間伐

22日（水） 生 春の野鳥観察 ✤

26日（日） 雑 斧で薪割り ✤

☆ 谷戸塾　　✤ 里山一日体験
各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
（農芸班、自然遊び班は、10 時）

🏳 会員以外の方 参加費500円/組

田：田んぼ班　畑：畑班　雑：雑木林管理班
農：農芸班　　自：自然遊び班
生：生態系保全班　植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内
TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10 時～16 時
ホームページ: https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp
Eメールアドレス:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

- 次号（会報 114 号）は、２０２３年３月に発行予定
- 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647